西多摩医師会報

第186号　昭和63年 6 月

青梅市健康センター

目　　次

		頁
2	再任にあたつて 西村会長	2
3	副会長に就任して 大塚　渉	3
4	松原貞一	3
5	西多摩医師会各部分掌図	4，5
6	4月定例理事会	6，7
8	5月定例理事会	8
8	西多摩地域の学校保健について 東　吉男	9
9	短歌（晩春の日曜日） 小泉新策	10
10	市町村医師会紹介シリーズ 足立卓三	10，11
11	医師会日誌	11，12
12	編集後記	12，13

再任にあたって

会長　西村　邦康

深緑の候　会員諸先生方には御健勝の事と拝察致します　会長再任にあたり遅ればせながら一言御挨拶致します。まず前期二年大過なく医師会業務が執行出来ました事は会員諸先生、理事、役委員の方々の一方ならぬ御協力によるものと厚く御礼申し上げます。

前期就任にあたり私は医療環境の厳しさの原因は財政面と言う外圧のみではなく、高齢化社会の到来による医療の質の変化、即ち疾病構造の変化と言う医療内部の問題としてとらえ、それに対応すべき西多摩地域医療供給システムの再構築を計り、市民のニーズに応えた市民にも『姿の見える医師会』づくりを業務の目標としました。

その基本に会員間の融和と、行政とのパートナーシップの確立をおき、医療における保健公衆衛生活動の重要性を強調して比較的遅れている西多摩三市五町一村各自治体の保健公衆衛生活動の充実を計るため、各市町村医師会活動の自主性と分権を考え、その基盤の上に西多摩医師会事業の整合性と統一を進めてきました。

具体的には　1）老健法によるヘルス事業（健康教育、健康相談）1）西多摩保健所胃集検事業の設定　1）『東京、西多摩地域医療計画－1984－』の具体化　1）日本医師会の政策目標である生涯教育　1）医師会組織の明確化、改善等などに取組んで来ました。そして〔西多摩地域医療機関連絡会〕、病診連携による生涯教育の動機づけ、医政連規約の明文化等にその事業の改善とその端緒を摑む事が出来ました。

しかしながら現実には業務が必ずしも円滑に進行したとは言えず、会務遂行の困難さを痛感しました。これは互いに和を唱えながらの長年の会員間の確執と組織上の問題によるものと考えられます。しかし以上の会務が実現出来たのは目標に向かって役委員の地道な活動と熱意が会員の皆様にこれからの医師会の在り方とその方向性が多少なりとも理解され協力して戴けた賜ものと思っています。

医師会の流れが、一つの時代を画した新しい方向に転換出来た事は多少の気負いかも知れませんがささやかな成果であったと自負しております。

これからの二年間、この流れを大切にして、折角端緒のついた西多摩地域医療の充実、なかんずく公的病院との役割分担の明確を計っていきたいと考えています。その為には地域医療の中で比重を増している公共投資の増加の現実を直視して、経済効率優先と市場論理の末端医療現場への導入の当否と民間活力の活用と言う医師会の主張の現実化を「西多摩地域保健医療推進協議会」「医療協」の場で討議しそのバランスを計っていきたい。

その実現にはまず『姿の見える医師会』で市民の理解をうる必要が有ります、今『待つ医療』から『出る医療』が言われており、この『出る医療』即ち市民から期待される保健公衆衛生活動、在宅ケアーシステムの確立、学校保健の充実を実践する事が『姿の見える医師会』と言うことになります。この実現に諸先生の御理解と御協力をお願いします。そしてこの事業の実現化には医師会組織の見直しと整備が必要であると考えています。　即ち現実に見られる西多摩医師会と各自治体医師会との組織上の乖離を直視して西多摩医師会と各自治体医師会との統一と分権の問題を西多摩医師会の活性化の為に討議する時期に来ていると思います。会員の活発なる御意見を拝聴したいと考えています。

重ねて諸先生方の御理解と御協力をお願いし同時に理事、委員の活躍を期待いたします。

副会長に就任して

大塚　渉

去る3月の総会で再び副会長に選任いただき、その責任の重さに身の引き締まる思いが致しております。もとより浅学菲才、「身のほそる」思いと申しますのが正直な所です。気鋭の方々が新たに理事に就任され誠に心強い限りです。その第1回の理事会の後、新旧理事の歓送迎会が開かれ、その席で退任されたある先生から、役員は（ボランティア故？）会員が順次交代したらという発言がありましたが、ひとつのご意見であろうと賛意を表するものです。

医師会の仕事も昨今複雑多岐に亘って参りました事はご承知の通りです。「生涯教育」も当然継続発展さすべきでしょうし、又「難病訪問診療事業」も一つの大きな柱となるでしょう。そして公衆衛生事業は好むと好まざるとに拘らず、その質と量は益々増大する事は必至です。その様な意味合いからも、私共は行政側の方々と、もっと密な連係をはかるべきかと存じます。

医師のステータスの低落が叫ばれてから久しくなります。西村会長は雑談の席で医師はその原点に還るべきだとよく話されております。こんなご時勢ですから、日医の政治力の必要な事は論をまちませんが、私共自身も昔ながらの地域医療を積み重ねる事が、市民の共感を得るものと努力はしているのですが…。

私事で恐縮ですが昨年暮、少々体調を朋し、蟄居して居りましたが、五月の連休には思い切って東北地方のツアーに参加してみました。「秋」は己を見る思いで、どうにも遣り切れないものですが、春の八甲田から奥入瀬渓流に至る残雪と新緑は、年甲斐もなく、はなやいだ気分にさせて呉れました。しかし乍ら、向後2年間会務にご迷惑をおかけするやも知れず、ご寛容の程よろしくお願い申し上げます。

会員、理事の諸先生方のご指導を得て、松原副会長共々何とか女房役の責を果たしたいと願っております。　　以上

松原貞一

西村会長として二期目の新執行部が誕生して、早や二ケ月が過ぎました。役員改選期で選挙のない総会を迎えたのは久し振りで、実に7期15年振りとなります。互選や推薦で執行部を作っていた当時、選挙という方法をとるに到ったのには、それはそれなりに理由があったわけではありますが、いざ選挙という制度を続けてみると、多数決というのは単純明解な利点もありますが、建て前と本音の部分が必ずしも一致しないという欠点も出て来て、時の経過と共に、これが会の和の為に果してベストの選出方法なのかという疑念の声も聞かれるようになりました。そのような会員の意志もあってか、今回ははからずも選挙のない改選となり、4月初回の理事会でも、何となく和やかな雰囲気があったように思います。西村会長の言う「先ずは会員相互の和」の為にも、選ばれた役員としては、会員の期待を裏切らぬよう出来る限りの努力を払わなければなりません。

世の流れは千変万化の今日、医療の現場でも、老健法保健事業は年毎に変わり、予防接種法も規則・細則も毎年のように変っており、インフルエンザ・ワクチン接種に関する市民運動・住民の医療に対する不信・不満から出て来る訴訟の増加等々、我々を取りまく環境は段々きびしくなって来ています。自分だけしっかりしていれば、よい仕事よい医療が出来るという時代ではなくなって来ました。我々が自分の城を守る為にも、そと堀りを固めなければなりません。その為に医師会がしなければならぬ役割、仕事は多々あります。これからの執行部は、先づは必要にして適切な情報を会員に伝え、会員にとっては頼りになる医師会、外部からは信頼され尊敬される医師会でなければならず、その為にも会長の補佐役として出来る限りの努力を払う積りです。

西多摩医師会

(　　)内　担当副会長　　◎印　担当部長　　○印　委員長

会長　西村邦康

副会長　大塚　渉

副会長　松原貞一

部名	担当理事	委員会名
総務部（大塚）	◎足立卓三．大嶽栄二．林　実．湯川文朗．	医事紛争処理委員会
		地域医療委員会
		救急．休日診療委員会
広報部（松原）	◎大嶽栄二．真鍋　勉．道又正達．	会報編集委員会
学術部（松原）	◎宮川栄次．大堀洋一．木村　隆．真鍋　勉．	学術部委員会
保険部（大塚）	◎高木　直．秋山静夫．足立卓三．井村進一．唐橋善雄．	社保指導整備委員会
		国保指導整備委員会
福祉部（大塚）	◎唐橋善雄．大嶽栄二．進藤　淳．宮川栄次．	福祉部委員会
公衆衛生部（松原）	◎林　実．秋山静夫．大堀洋一．木村　隆．	公衆衛生部委員会
学校医部（松原）	◎湯川文朗．林　実．道又正達．	学校医部委員会
産業医部（松原）	◎井村進一．高木　直．野村有信．	産業医部委員会
経理部（大塚）	◎大嶽栄二．進藤　淳．湯川文朗．	

西多摩地区医療保健衛生協議会「医療協」	○ 大塚　渉．足立卓三．大嶽栄二．大堀洋一．川辺隆道．
医道審議会委員	（委員長）丸茂三千穂　（副委員長）池田　聖．木野村幸彦．

地区名

地区名	会長名	副会長名
西部	足立卓三	川辺隆道
東部	宮川栄次	大嶽栄二
南部	湯川文朗	秋山静夫

各部分掌図

（昭和63年4月 現在）

委員氏名
（南部） 大塚 渉．鈴木 修．　（東部） 松原貞一．堤 次雄．　（西部） 足立卓三．小沢昌彦．
植田 稔．川辺隆道．大塚宜夫．栗原琢磨．小林康光．佐々木章．鈴木 修．村山正昭． 吉野住雄．
石井好明．木村 隆．小林杏一．清水章三郎．高木 直．中村 武．萩森正紀．波田野洋夫． 宮川栄次．横田卓史．横田 博
○ 大嶽栄二．石井好明．栗原琢磨．小林杏一．真鍋 勉．道又正達．百瀬眞一郎．横田 博． 渡辺良友
○ 宮川栄次．大堀洋一．川辺隆道．木村 隆．佐々木章．坂本保巳．鈴木 修．田代 洋． 玉木一弘．野本正嗣．東 吉男．平沼 俊．真鍋 勉．村山正昭．諸角強英．渡辺良友．
○ 足立卓三．秋山静夫．市原 靖．今川 武．大嶽栄二．大堀洋一．川口卓治．木野村幸彦． 栗原琢磨．小林杏一．斎藤信幸．笹本隆夫．館野 進．平林信隆．馬詰良比古．道又正達． 山田 登．湯川文朗．横田卓史．渡辺良友
○ 高木 直．井村進一．小川 隆．奥野 仁．唐橋善雄．木村 隆．小林康光．三枝 進． 島田芳明．鈴木 穆．鈴木 修．鈴木 丹．野本正嗣．葉山 侃．堀内 素．真鍋 勉． 山口岱三．荒巻武彦．米谷豊光．横田 博．
○ 唐橋善雄．稲垣壮太郎．井上勇之助．大嶽栄二．奥野 仁．栗原琢磨．進藤 淳．野本正嗣． 宮川栄次．
○ 林 実．秋山静夫．大堀洋一．川辺隆道．木村 隆．笹本隆夫．野本正嗣．横田 博． 横田卓史．渡辺良友．
○ 湯川文朗．井村進一．内田萬次．大嶽栄二．川辺隆道．木野村幸彦．木村 隆．栗原琢磨． 佐々木章．清水章三郎．林 実．東 吉男．道又正達．吉野住雄．
○ 井村進一．高木 直．野村有信．森 和胤．
木村 隆．林 実．松原貞一．湯川文朗．
清水章三郎．堤 次雄．葉山 侃．東 吉男．平林信隆．堀田洋夫．

4月定例理事会

昭和63年4月8日（金）P.M.7：30
西多摩医師会館講堂

議事録署明人｛眞鍋理事
湯川理事

議題

1. 昭和63年度臨時総会開催に伴う4月，5月の日程について
   ○ 4月12日（火）新旧役員懇談会の際に役員分担を発表したいので臨時理事会に変更する　　— 承認 —
   ○ 5月21日の第4土曜日に臨時総会を開く　　— 承認 —
   17日に臨時理事会を開き総会全般の検討を行う。
2. 職務分担については正副会長に一任していただきたい　　— 承認 —
3. 入退会会員　　— 承認 —

フリートーキング

1）昨年度の理事会で決まったことであるが、現在迄行われている難病患者の自宅を保健婦が訪問している所謂在宅難病患者訪問相談指導事業を診療事業にしようということで東京都医師会が各地区医師会に受託して事業を始めることになった。

保健所単位で在宅医療調整委員会が出来、保健所、市町村、医師会で委員をおくり年6回話し合いの場を持つことが4月から決定している。西多摩医師会でも当然参加してもらいたいとのことで話が来ており、西多摩医師会事務室から東京都医師会に書類を送ってあったにもかかわらず、事務処理の段階で手違いがあり、担当者が受取っておらず今年度は研修費つきの準備期間としての事業を公衆衛生部でやることになっている。理事会で決定したことが色々の手違いで、うまくゆかなくなったということで、この様なことのないように事務室ともよく話し合ってやっていきたい。又現在のこの情報化社会の中で色々な情報をすばやく得ることは、必要なことなので、理事は担当理事連絡協議会に出席するとか、都医師会の理事がこちらにこられたときは顔を出して知り合いになることも必要なことであると考えている（松原副会長）

2）杏林納税貯蓄組合が解散して青梅市のみが残ることで決定しているが、残された財産についても青梅市医師会に任せることで決定している。後藤先生より医師会で必要な物品があれば早急に出していただければ、ご援助しますとの話をいただいている。
（会長）

3）保険担当の理事にお願いしておきたいが、特別養護老人ホームに併設している診療所又は、特別養護老人ホームの患者を多く診ている方々の診療形態の在り方について疑義が生じているので東京都福祉局福祉課と国民健康保険課の行政担当者に来ていただいて質疑をして明確化を計りたいということで担当課長と話し合いが出来ている。それに関連してその様な施設を調べたり問題点を提起していただきたい。　（会長）

4月臨時理事会

昭和63年4月12日（火）P.M.7：30
福生「幸楽園」

議事録署明人｛宮川理事
大嶽理事

議題

1. 役員改選に伴う理事分掌について
   （西村会長）
   正副会長にて協議して決定したので、これから発表する。特に石井先生は副会長待遇とし職務担当から外す。総務会には出席していただく。会報編集委員会は、従来理事会から独立していた形をとっていたが、今回から広報部の中に入れる
   — 承認 —

4月定例理事会

昭和63年4月19日（火）P.M.7：30
西多摩医師会館講堂

議事録署明人｛井村理事
林　理事

1　報告事項

(1)　都医地区医師会長協議会報告

（西村会長）

1. 第77回日本医師会定例代議員会について
2. 保健所福祉サービス調整推進会議の設置について

在宅サービスを担う保健医療福祉等の関係者の連携を強化して保健婦等が行う訪問活動を効率的に推進することを目的とし63年4月設置。構成メンバーは保健所(4)　市町村(3)　医療関係(4)　福祉関係(2)　その他(2)

3. インフルエンザ予防接種問題について

インフルエンザ予防接種が低率であったので、インフルエンザ予防接種に反対する市民の側から予防接種の在り方、特に手当の問題について投書が練馬区にきている。もし各地区の医師会にきたならば、東京都総務局及東京都医師会公衆衛生部に連絡する。

4. 請求省令及び診療報酬書等の記載要領等の一部改正について
5. 東京都に於ける生涯教育について
6. 第11回日本プライマリーケア学会参加登録目評について
7. 医療計画公示前における病院開設等の許可取り扱いについて
8. 多摩南部地域病院（仮称）多摩総合精神保健センター（仮称）の建設用地について
9. 第20回産業医学講習会開催について

(2)　三多摩ブロック地区医師会長協議会報告　（西村会長）

席上臨床検査料の問題が出た。厚生省の指導で業者は検査料の80％ということであるがどうするか。各医師会毎で考えるようにしたい。

(3)　三多摩地区医師会庶務担当理事連絡会報告　（足立理事）

保谷市に総合病院を開設する話があるが、現在は棚上げ。各地区で固定資産税（医療機関）の減税が行われているが50～80％程度が多数。老健法による健診用紙は3枚複写になっているが、自治体より1枚を保健所へ廻しているところが1ケ所ある（西多摩以外）、このようなことがないようにしたい。

(4)　在宅難病患者訪問診療事業打合会報告　（湯川理事）

事業の主体は都衛生局で、都医師会への委託事業。本年度は4月からの発足で11地区200件を目標にしていたが、最終的には20地区240件と決定。65年度には都全域で実施予定。専問医その他でチームを組み年4回実施し、寝たきりで在宅の患者を対象とする。

(5)　地区医師会医事紛争担当理事連絡会報告　（唐橋理事）

〝この問題は重要であるので後日唐橋理事より詳細に記事を書いていただく〟

2　協議事項（決定事項）

(1)　委員の任命について

○正副会長及各理事で慎重に検討し、決定した部は承認。増員すべき部は増員すること。

○地域医療委員会、休日救急診療委員会については、後刻総務部で協議する。　— 承認 —

(2)　その他

○医師会報に出す理事会報告は総務部が担当する。　— 承認 —

○都の委員会、又は担当理事連絡会に出席した理事は文書にして理事会に報告する。それをもとに会報に掲載する。各部報告についても従来通り15日迄に出す。　— 承認 —

○｛多西小学校校医／神明保育園園医｝　瀬戸岡俊一郎先生

就任 — 承認 —

○入退会会員　— 承認 —

5月定例理事会

昭和63年5月9日（月）P.M.7：30
西多摩医師会館講堂

議事録署明人｛木村理事
眞鍋理事

協議事項

(1) 昭和62年度決算報告について承認を求める件（付　監事の監査報告）── 承認

(2) 委員の任命について
増員した各部委員について承認。
地域医療委員会休日救急診療委員会の人選については総務部にまかせていただく　── 承認 ──

(3) 保健所（西多摩地域）における胃がん検診事業運営協議会について
委員の任期満了に伴い現委員の林実委員の代りに鈴木修先生に委員を委嘱
── 承認 ──

(4) その他
○救急業務連絡協議会の設置について
宮川理事に任せる　── 承認 ──
○新規会員年会費査定について
── 承認 ──
○入退会会員
○保健所の健康増進指導事業については、保健所より依頼により医師会より講師を派遣して行うことに決定している。各保健所から講師の依頼が来ているが秋川出張所からは来ていないので公衆衛生部長から確認してもらう。
── 承認 ──
○東京都保健所運営協議会委員については南部、西部ブロックで変更する。
── 承認 ──

5月臨時理事会

昭和63年5月17日（火）P.M. 7：30
西多摩医師会館講堂

議事録署明人｛進藤理事
唐橋理事

議題

1. 昭和63年度臨時総会全般について
2. その他
○医師会各部分掌図の報告　── 承認 ──
○市立総合病院の午後診療・眼科・耳鼻科の拡充をしていただきたいとの青梅市議会議長への陳情が新日本婦人の会青梅支部（署明者506名）よりなされている。これは学校の健診后に、治療のため総合病院に受診したいが、学校を休まねばならぬので何とかならぬかということである。医師会としては病診の機能分担との観点から賛成しかねるが、耳鼻科又は眼科の健診時に於ける即治療か、要指導か、その辺の区分で対応出来るかどうか今后検討する。
○東京都青梅病院長山下文雄先生の所得税法違反問題について
都医師会医道審議委員会が開催され、その中に本件が俎上にあがった。この結果5月30日会長が同行し都医師会にて事情聴取が行われることになった。西多摩医師会としては、山下先生の身分について又同時に厚生大臣に嘆願書を呈出するかどうかも含めて、西多摩医師会医道審議会に諮問する。　── 承認 ──
○入退会会員　── 承認 ──

お　ね　が　い

原稿は毎月20日〆切と致します。

テニス同好会結成の動きがあります。
看護婦さん、事務員さんもどうぞ…
次号案内あり。

西多摩地域の学校保健について

東　　吉　男

高令化社会の到来と共に、人々は余生を如何に安楽に過ごすかという事に強い関心を寄せると共に人生八十年の生き方を真剣に考えるようになってきたようである。人の一生の中で、乳幼児期から大人になる迄の約２０年間は人生の基礎固めの時であると考えられる。従ってその中での学校生活のあり方は極めて重要といわねばなるまい。学校保健が重要視される由縁である。

最近その学校保健も２～30年前のそれとは著しく変貌していることは善く関係者の指摘する通りであり、結核、赤痢、小児麻痺、麻疹等の患染症の激減により今や学校保健も疾病予防に力点が置かれるようになってきた事は自然の成り行きと言うべきであろうか。現在学令期児童の疾病といえば感冒及びその類縁疾患が大部分を占めており、川崎病とか先天性疾患とか専門医に任せる病気は心、腎疾患等を含めて極小数存在するに過ぎない。茲で目立つものとしては、学令期の子供にみられる心の病気である。この事は後述するとして最近世の人々の関心事は成人病予防と共に如何にして幸せな人生を送るかということであり、その目的達成の為に幼小児期からの健康生活のあり方が見直されてきていることは夫々の専門家のひとしく認むる所である。併し乍ら言うは易く行うは難しで、このことは最近に於ける我々の生活習慣及び環境の目まぐるしい変化と、より快適な生活を指向する人々の飽くなき欲望の追究に思いを馳せる時、健康生活の見直し改善といっても中々容易なことではない。

たとえば成人病（特に動脈硬化症）予防の為に必要な食生活の改善一つをとりあげてみても一朝一夕に出来ることではない。要は両親を始め学校関係者、行政関係者等が同じ認識の下に立ち、マスコミ及び我々医療関係者等の執拗な迄の持続性のある指導努力が絶対に必要であると考えられる。そのよい実例がアメリカである。米国では心臓病予防の為に数年前より国を上げて食生活の改善策等に一大キャンペーンを張り、着実な成果をもたらしたといわれている。

尚お最近大きな社会問題として大きくクローズアップされているのが学令期の子供の心の病である。登校拒否、校内暴力、家庭内暴力を始め最近では子供の自殺行為、いじめ等が大きな注目を集めている。この様な子供達の異常行動は学校生活、社会環境の変化等色々の問題が複雑に絡んでおり、臨教審を始め諸種の教育関係者の間でその対策が熱心に討議されている所であるが、これらの問題解決も又決して容易なことではない。以上の様な学童の問題行動は我々学校医とは無関係の事の様にも思われるが、必ずしもそうではない。必身一如と言われる如く、心と体の健康に互いに関連し合っており、我々校医は日頃から絶えず児童生徒の異常行動や心の変化に心を配り、これら非行の原因究明及びその対策に心を砕くべきであろう。

この様に考えてくると我々校医の果すべき業務は極めて広汎に亘り、真面目に考えればとても診療の片手間に出来る仕事ではない様に思われる。併し現に校医であり、医師として地域医療第一線の指導者として自負する以上、知らぬ存ぜぬでは通るまい。我々に出来ることから、そして又そう負担にならないことから始めて少しでも又ひとつでも学校保健改善の為に力を尽くすことは校医たる者の責務であろう。

以上の観点から現実に戻って我々は西多摩地域全体の学校保健関係者が集って色々の問題を討議する西多摩学校保健連絡協議会を発足させたのであるが、更に輪を拡げて他の地域にみられるような学校保健会の如きものを結成することが出来たら各種の問題解決は一段と促進するであろうし、我が西多摩地域の学校保健もやっと一人前になる事であろう。

「晩春の日曜日」　小泉新策

遅咲きの　桜も散りて　さ庭辺
大手　小手毬　躑躅など　さかれり

栃の木も　朴も漸く　芽咲き初む
泰山木の　蕾のみ　尚お固し

前の藪は雉子の　塒か　朝な夕べ
鋭き声して　急に羽搏たく

遠目にし　紫の花　満開に
帰還記念に　植えし　桐大木の

恒例の　刀剣展示　会を催せり
数多貴重なる　珍品展示せり

見学者　行列なして　忙はしくて
時代考証　作者など　解説におわれ

ようやくに　夕景頃に　完了す
古き時代の　名残り　おしみつ

アフガンのソ連軍　撤退開始さる
我等関せずも　平和は目出たし

市町村医師会紹介シリーズ

青梅市　足立卓三

私は昭和46年に青梅市立総合病院にまいりましたが、青梅線河辺駅から見えた病院の建物はお粗末、午後7時にもなると数少い商店は電気を消してしまってまっ暗、道路の舗装は不完全で雨でも降ると長靴が必要、といった状態で、夜ともなると淋しくて、淋しくて新宿までよく飲みに出かけました。その帰りに立川駅で終電車を待っているのが、特に冬場はみじめに思えたのを憶えています。

今では人家も増え、道路も舗装され、駅舎や総合病院の全面的な増改築もなされ、つくづく「随分変ったなア」と思います。

その当時から総合病院勤務の医師はB会員として青梅市医師会に加入していたと思いますが、会費を直接支払った記憶もありませんし、会に出席した事もなかったような気がします。その後開業してからはいろいろ医師会の行事に参加するようになりましたが、最近は所謂二代目若先生を含めて若い先生が増え遂に自分の老化を思い知らされている昨今です。

さて、青梅市医師会の現況はというと、加入医療機関数は56で、会員総数は134名にのぼっている。

東部・南部の両ブロックは複数の市町医師会の集合体から成り立っているが、西部ブロックは奥多摩町の医療機関が少い為、現在のところは奥多摩町医師会がなく、青梅市医師会に編入されており、したがって他ブロックと異り、青梅市医師会と西部ブロックとは全く同一の組織となっている。この点は今後検討する必要があろう。

当ブロックの中には西多摩地区で高度医療の中核をなす青補市立総合病院があり、我々無床の開業医としては非常に心強い存在である。私もその1人であるが、青梅市医師会員の中には以前総合病院に勤務ししいた先生も何人かおいでになるという事や、比較的医業生活が安定しているという事もあると思われるが、総合病院と私的医療機関との関係は概

今期当委員会編集の初めての会報をお届けするにあたり、皆様方の御指導、御協力を心からお願い致すものであります。

編集委員会の今期の方針といたしましては、従来行われていた極く当り前のことではありますが、

1. 西多摩医師会の動向を正確に会員の方々にお伝えすること。このことは理事会、各種委員会の活動状況をお伝えするが、これを示していると思います。
2. 会員の方々に喜んで読んでいただけるような会報にしたい。広報部の中に入った医師会報となると何か真自目一方の面白味のないものを想像されがちですが、理事会報告、各部報告、論説、学術、文芸、同好会だより、地区だより等々、バラエティーに富んだものを盛込んで、ソフトな感覚なものにしたいと考えております。口幅ったいことを書いておりますが、これはあくまでも願望でありますので、目標は大きくということということで考えております。目標は大きくもつても原稿が集まらないのでは手も足も出ないということになりますので会員の先生方、御家族の方々の御寄稿を心からお待ち申し上げております。

今年度は表紙に西多摩各自治体の健康保健センターの写真を飾ることに致しました。同時に表紙の写真に合せて、各自治体毎に、医師会長さんより"我が街の医師会"というようなことで医師会の現状、地域医療活動等について、御寄稿をお願いする予定です。西多摩に住いし、仕事を持っていても隣の市の、町の様子はご存知ない方も大勢おられることと思います。西多摩は面積で東京都全体の26.6%を占めるが、人口では僅かに2.7%。3市5町1村の自治体で構成されるという地域の特殊性を考慮して、多少お節介かと思われますが、企画したものであります。ここでお詫びを申し上げておきますが青梅と福生の健康センターは以前会報に写真が掲載されたことがありましたが、今回の企画はシリーズ物でありますので、ご容赦いただきたいと思います。今月号は、会長、両副会長、小泉先生、東先生、足立先生に原稿をいただき有難うございました。塩沢先生からもいただいておりましたが紙面の関係上、次号に掲載させていただくことに致しました。お礼を申し上げると共にお詫びを申し上げます。　（担当　大嶽栄二）

昭和63年6月1日発行

発行所　(社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分3－103
TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員　大嶽栄二
石井好明　栗原琢磨　小林杏一
真鍋　勉　道又正達　百瀬眞一郎
横田　博　渡辺良友

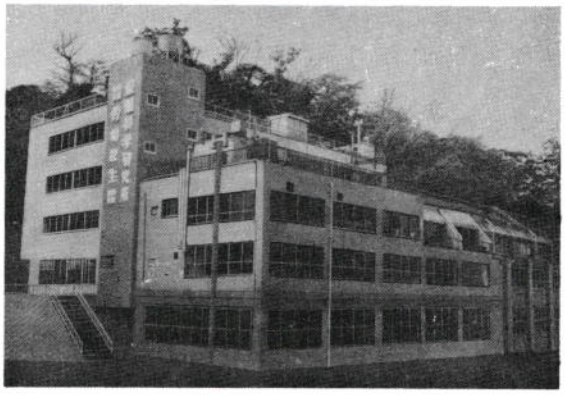
本号の校正は道又（0425-51-3626）

印刷所　マスダ印刷　TEL (0428)22-3047

臨床検査センターの雄

保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町１０６
電話 045（333）1661（大代表）
八王子市子安町３－１７
電話 0426（26）2203・2204

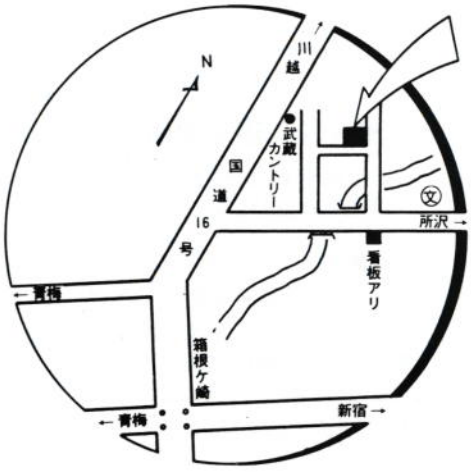


○総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
○完全オンラインシステム化を実現致しました。（データー通信システム）
○関係医療機関　約 3,500ヶ所
○広範囲な検査内容
●内分泌学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
●病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

１都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。

期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床へ**　電話一本緊急検査に応じます
学校，会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉田富徳

埼玉県入間市上藤沢３３９～１
TEL　0429（64）2621(代)